

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンをピークに減少傾向を示し、2002,2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、2005年以降減少傾向を示し、2020年は1120トンとなりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2021年は1103トンとなりました。

2. 2022年1～2月の漁況の経過

西薩海域では、水揚げはありませんでした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に9トンの水揚げで、前年の22%、平年の12%でした。

3. 2022年4～6月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

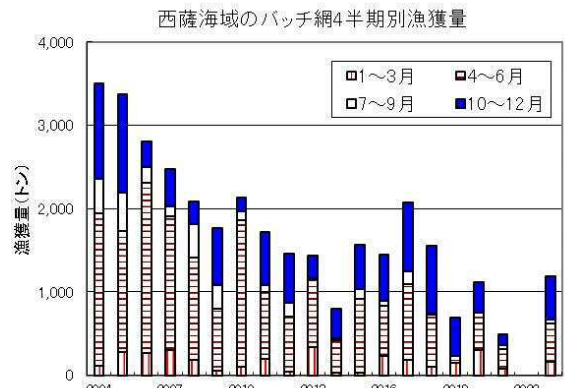
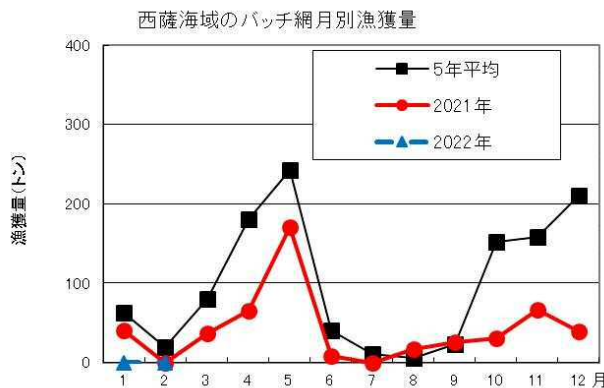
来遊量は、西薩海域は、前年を上回り、平年並みと考えられます。

志布志湾海域は、前年・平年を下回ると考えられます。

(根拠)

西薩海域では、海況の状況から、前年を上回り、平年並みと考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から前年・平年を下回ると考えられます。



西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

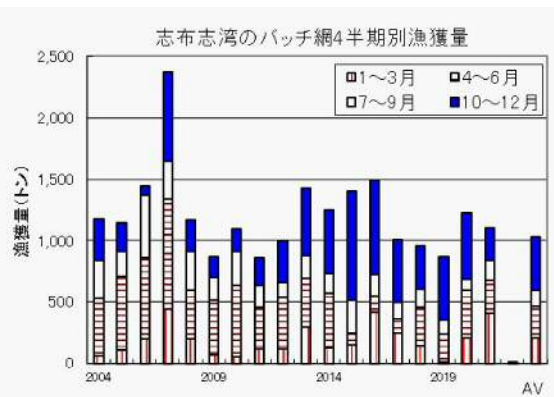
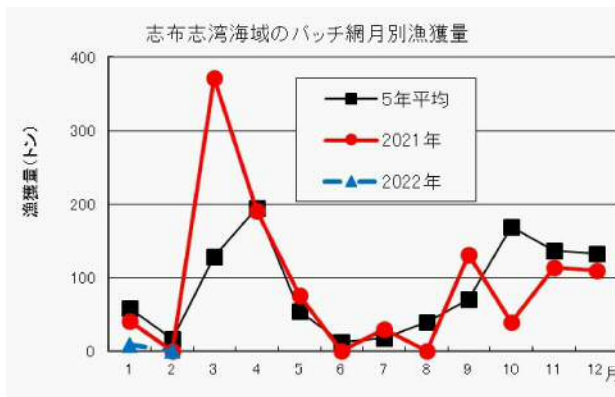


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2022年2月28日までの水揚量を使用